

学位被授与者氏名	符 方霞 (ふ ほうか)
論文題目	連体修飾に関する日中両言語の比較研究 “A的B”と「AのB」を中心に
論文審査結果の要旨	<p>連体修飾構造は言語基本構造の一つであるので、中国語の“A的B”と日本語の「AのB」に関する先行研究とも多く、一般の辞書、教科書にも教育レベルにおける論述がよく見られる。よって、本論の研究は深く進めにくい課題と思われる。作者が朱徳熙 (1961)、顧盤明 (1998)、橋本永貢子 (1999)、井上優 (2003)、陸丙甫 (2008) などを踏まえ、「構造のすべての部分について全面的な考察比較」を研究内容と目標に設定し、またできるだけ多くの実例分析を通じて両言語の異同点をまとめるという方法が採用された。この試みは修論として適切で、認められる。</p> <p>第二章の「方位詞のA」、第三章の「形容詞・動詞のB」についてのまとめ、第五章での動詞の結合価 (valence) によるBの省略条件に関する分析、第六章での「洋服の青山」「ギョウザの王将」のような構造に動詞が隠されているという観察などは、百パーセントの新しい見解とは言えないが、従来の研究に補足された点があり、評価できる。また、本論は活字A4での99頁に及び、厩大な実例の選定とその訳は殆ど作者によるものであり、各章の構成、体裁、用語なども修士論文として適当であると判断される。</p> <p>しかし、比較研究としては、対照に止まることが多く、論述分析がワンパターンになり、重複の箇所もかなり見られている。また、不自然な日本語表現もあると思われる。</p> <p>平成24年2月29日に、北九州市立大学北方キャンパス3号館320教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(中国言語文化)として十分な内容であると判定した。</p>